

令和5年度 年度計画
達成状況報告書



令和6年6月
北海道公立大学法人札幌医科大学

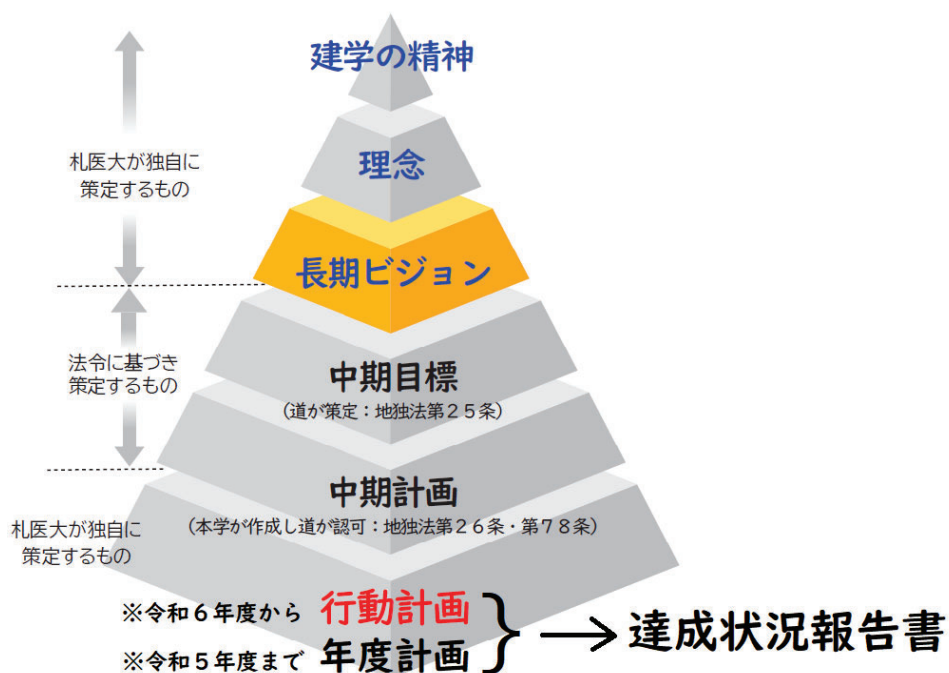
～はじめに～

令和5年度は、札幌医科大学における第3期中期目標期間の5年目となります。

令和5年6月の地方独立行政法人法の改正により、年度計画及び年度評価の法的義務が廃止されることとなりましたが、本学では、第3期中期目標期間中においては、法定による「業務実績報告書」に代わる「達成状況報告書」を作成し、自己点検・評価を実施することで、第3期中期目標期間中の確実な計画達成を目指すことといたしました。

令和5年度の年度計画に係る「達成状況報告書」では、令和5年度「年度計画」に対する達成状況を簡潔にまとめ、次とおり報告します。

運営方針・計画の体系図



目次

1 大学の概要	1
2 総括実績 (令和5年度「年度計画」に関する自己点検・評価)	3
3 その他の主な実績	6
4 決算、収支計画及び資金計画等 別紙 決算、収支計画及び資金計画	10

1 大学の概要

(1) 大学名・所在地

北海道公立大学法人札幌医科大学・北海道札幌市中央区南1条西17丁目

(2) 役員の状況(令和6年4月1日現在)

理事長	山下 敏彦(学長)
副理事長	鈴木 一博
理事	齋藤 豪(医学部長)
理事	片寄 正樹(保健医療学部長)
理事	渡辺 敦(附属病院長)
理事	石田 裕一
監事	山崎 博
監事	竹内 弘雄

(3) 学部等の構成(令和6年4月1日現在)

① 学部等

医学部	医学科
保健医療学部	看護学科 理学療法学科 作業療法学科
医療人育成センター	

② 大学院

医学研究科	医科学専攻[修士課程] 地域医療人間総合医学専攻[博士課程] 分子・器官制御医学専攻[博士課程] 情報伝達制御医学専攻[博士課程]
保健医療学研究科	看護学専攻[博士課程前期・後期] 理学療法学・作業療法学専攻[博士課程前期・後期]

③ 専攻科

公衆衛生看護学専攻、助産学専攻

④ 附属病院

診療科数	30科
中央診療部門等	22部門
病床数	922床
室数	284室

⑤ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、医学部附属研究所、
医学部教育研究機器センター、医学部動物実験施設部、医学部サージカルトレーニングセンター

(4) 学生数及び教員数(令和6年4月1日現在)

学部学生	1,035人	大学院生	268人
専攻科学生	31人	研究生	69人
訪問研究員	258人	留学生	3人
教員数	393人	職員数	1,306人

(5) 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部(昭和58年開学)を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学

として発展してきた。

この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。

平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。

平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育(医学及び保健医療学)の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

平成23年4月には、研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。

平成31年4月には、本学の教育研究の充実発展及び教育水準の向上に資することを目的として、医療人育成センターに、入試・高大連携部門及び統合IR部門を設置した。

令和2年4月には、高い実践力を持つ、質の高い保健師を養成するため、専攻科公衆衛生看護学専攻を開設した。

令和3年4月には、地域医療に関する教育研究及び総合診療医の育成を目的として地域医療研究教育センターを設置した。

令和3年12月には、医療現場における実践的な臨床能力の向上と、地域における医療人材の育成及び医療技術の向上を図るため、医学部サージカルトレーニングセンターを設置した。

令和4年11月には、道が策定した札幌医科大学施設整備構想に基づき、平成24年から進めてきた教育研究棟、大学管理棟、附属病院西棟および体育館等の附属施設の新築、ならびに外構工事の完成を記念し、札幌医科大学新キャンパス落成記念式典を挙行了した。

(6)建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(7)理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- 人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- 国際的・先端的な研究を進めます

(8)教職員の行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(9)学生の行動規範

1. 札幌医科大学の建学の精神と教育ポリシーを理解し、学内の諸規則を遵守する。
2. 学部、学科、研究科及び専攻科ごとに策定されたディプロマ・ポリシーに求められている知識と能力の修得に努力する。
3. 社会の一員として、他者の人権、人格、個性を尊重し、差別やハラスメントにつながる言動を行わない。
4. 患者、臨床実習に関わる全ての人々並びに大学に所属する全ての学生、教職員に関する個人情報の保護と守秘義務の履行を徹底し、ソーシャル・ネットワークキング・サービスを含めた情報発信などの情報管理に細心の注意を払う。
5. 本学における学習並びに研究活動は社会からの負託を受けていることを理解して学習や研究に努めるとともに、正課外活動などを通して学生としての地域社会貢献並びに国際社会貢献に努力する。

(10)中期目標(令和元年度～令和6年度)(基本目標)

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、国際的・先端的な研究を推進し、最高レベルの医科大学を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行うとともに、救急・災害医療など、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 地域への医師派遣等を通じ、本道の地域医療提供体制の確保に向け、積極的な役割を果たす。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供、より一層の産学官連携等を進め、研究成果の社会還元に努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 総括実績(令和5年度「年度計画」に関する自己点検・評価)

本学は、公立大学法人として発足後、令和5年度で17年目を迎え、第3期中期計画期間の5年目として、中期計画達成に向けた積極的な取組を進めた。

年度計画の全60項目について自己点検評価を行った結果、S評価が3項目、A評価が51項目、B評価が6項目となった。

A評価以上となった項目は54項目(全体の90%)であり、全体としては、年度計画どおり取組が実施され、一定の成果を上げることができた。

なお、各項目の実施状況については次のとおりである。

分野	計画 No.	自己評価
教育	1	A
	2	A
	3	A
	4	A
	5	A
	6	A
	7	A
	8	A
	9	B
	10	A
	11	A
	12	A
	13	A
	14	A
研究	15	S
	16	A
	17	A
	18	A
	19	A

分野	計画 No.	自己評価	
附属病院	20	A	
	21	A	
	22	A	
	23	A	
	24	A	
	25	A	
	26	A	
	27	B	
	社会貢献	28	A
		29	A
30		S	
31		A	
32		A	
33		B	
34		A	
35		A	
36		S	
37		A	
国際交流	38	B	
国際貢献	39	A	

分野	計画 No.	自己評価
業務運営 改善 ・ 効率化	40	A
	41	A
	42	A
	43	A
	44	A
財務内容 の改善	45	A
	46	B
	47	A
	48	A
自己点検 ・評価 情報提供	49	A
	50	A
	51	A
その他 業務運営に 関する重要 目標の達成	52	A
	53	A
	54	A
	55	A
	56	A
	57	A
	58	B
	59	A
	60	A

S評価: 上回って実施している

A評価: 十分に実施している(達成度が9割以上)

B評価: 十分に実施していない(達成度が9割未満)

C評価: 実施していない

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

実施した主な内容は次のとおりである。

○入学者選抜方法の改善(年度計画No.2)

令和5年度入学者選抜の実施結果の分析について、入学試験委員会、入学者選抜委員会及び両学部の教授会等で報告し検証した。また、両学部において、入学試験委員会の下に入試制度改革ワーキンググループを設置し、過去の入試成績データや入学後成績データ等を分析・検証し、入学者選抜方法の見直しを検討した。

医学部では、入試制度改革素案を12月の入学試験委員会で決定し、ステークホルダー懇談会で意見を聴取した。

保健医療学部では、学校推薦型選抜について1校が推薦できる人数の変更を検討し、7月の入学試験委員会で決定、11月に実施した入学者選抜から変更点を反映して募集を実施した。

○教養教育の改善(年度計画No.5)

教養教育関連科目の教育内容について、授業評価アンケートや医療人育成センター内での検討結果を踏まえ、関係委員会(両学部カリキュラム委員会、教務委員会等)と連携し必要に応じた見直しを図った。授業資料のアップロード、課題提出に加え、授業内テストの実施とフィードバック、Q&A、アンケート等、LMS(Learning Management System:学習管理システム)を利用した学習環境の構築を行った。

○医療人育成に係る組織体制の構築(年度計画No.10)

これまでの自己点検、組織体制の検証、および各委員からの意見を踏まえ、医療人育成センター各部門の取組や改善状況を検証した。また、教員の人員配置を含む今後の組織体制の方向性について議論し、教育開発研究部門に教員を2名補充した。

○独創的シーズの開発(年度計画No.15)

各種展示会に出展し、複数のニーズにおいて道内ものづくり企業と試作品の開発や共同研究契約を締結した。北海道総合研究機構の技術指導を受けて開発された2製品は発売開始に至り、同機構との交流の深化にも寄与した。

○神経再生医療に係る取組(年度計画No.21)

急性期脊髄損傷に係る神経再生医療の患者受入を行うとともに、リハビリテーションを目的とする転院先の医療機関との連携体制の構築を進めたほか、脳梗塞の治験について、関連病院等からの照会を通じた被験者確保に継続して取り組んだ。

○臨床研修の充実、地域医療従事者のキャリア支援等(年度計画No.25)

指導医や研修医と定期的に集まる機会を活用し、研修環境や広報活動等について議論を重ね、改善に向けた取組を継続するとともに、大学独自枠(北海道医療枠・地域枠)卒業研修医に対する個別キャリア支援面談を実施し、初期臨床研修医及び専攻医の確保に努めた(初期臨床研修医:20名、専攻医:86名)。

○病院経営改善に向けた不断の取組(年度計画No.27)

全国的な物価高騰の影響に加え、改修工事に伴う稼働病床数の減少による診療収入の落ち込みや、医薬品の高額化等に伴う医薬材料費の増加などにより、令和5年度は大幅な経常損失となっているが、新たに導入した経営分析ソフトにより、入院患者のDPC請求内容を精査し、請求額の向上を図ったことや、後発医薬品の使用率は、後発医薬品使用加算1の90.0%を上回っており、現状の加算2から加算1への届出を目指すなど、効率的、効果的な医薬材料費の執行に向けた取組を実施した。

○診療支援要請への対応(年度計画No.28)

道や関係機関と連携し、地域医療機関からの診療支援要請に応えるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり公的医療機関等へ医師派遣を行った。

※ 医師派遣要請件数:2,205件 派遣実績:2,145件

応諾率:97.28% (うち公的医療機関派遣実績:1,343件)

エクモカー派遣要請件数:26件

また、前年度に引き続き、道との「感染症対策に関する連携協定」により、道内における新型コロナウイルス感染症に

係る入院調整業務や宿泊療養施設における相談医・オンコール対応等について、道の要請に基づき医師等を派遣した。

※支援内容及び派遣延べ人数

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策チーム入院調整班における、入退院調整業務(場所:札幌市保健所等、医師5名・延べ5日)
- ・ 道設置の宿泊療養施設における健康管理対応及びPCR検査対応、オンコール対応(場所:宿泊療養施設、医師4名、延べ74日)

○民間企業等と連携した公開講座等の開催や情報発信の取組(年度計画No.34)

民間企業等との包括連携協定事業として実施している公開講座・セミナー等については、道民ニーズの高い内容で実施し、参加者アンケートでは平均91%の満足度を得た。また、本学の優れた取組について、各種メディアや大学ホームページをはじめとした広報媒体を活用し、広く情報提供を行い、道民の健康づくりに貢献した。

○民間企業や異業種研究機関との連携関係強化の取組(年度計画No.36)

医療機器関連産業参入研修会において、本学から医療現場のニーズを発表し、複数のニーズにおいて試作品の開発や共同研究契約を締結した。また、研究シーズ集の大学ホームページへの掲載や、AMED のマッチング支援システムにより、製薬企業へシーズを情報発信した。

○海外大学等との国際交流の取組(年度計画No.38)

協定校主催の海外語学研修や研究発表会への学生参加のほか、協定校から9名の学生を受け入れるなど、国際交流停滞前の水準に戻すべく、交流事業を推進した。また、大学間交流協定校の拡大について、2校との協議を行っており、協定締結に向け引き続き取り組んだ。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

実施した主な内容は次のとおりである。

○職員研修の充実による人材育成(年度計画No.42)

全職員を対象とした「令和5年度札幌医科大学SD活動実施計画」に基づき、計画的・体系的なSD活動を実施した。事務職員の階層別研修のうち、係長級の研修については、従来の外部講師によるセミナー形式の研修ではなく、グループごとに長期ビジョンに基づいたテーマについて議論し、幹部及び管理職にプレゼンテーションする形式で実施した。

○社会環境の変化を踏まえた組織体制の構築(年度計画No.43)

附属病院の改修工事・移転及び新型コロナウイルス感染症を考慮した人員配置を行った。また、令和5年4月に正式導入した電子申請システム及び RPA(プロセスの自動化)の運用により、中長期的な執行体制の課題等を踏まえた法人の執行体制を構築した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

実施した主な内容は次のとおりである。

○外部研究資金、寄附金その他の自己収入の確保(年度計画No.46)

数値目標を設定した『科学研究費補助金の申請数』について、実績は年301件となり、昨年実績の281件を上回ったものの、目標の「年平均323件以上」を達成することができなかったが、科学研究費助成事業申請書作成レクチャー及び申請書作成レビューを引き続き実施し、採択率の向上を図るとともに、科研費補助金申請数の増加に繋げる取組を行った。また、インターネット納付による寄附受入を継続実施し、自己収入の確保に努めた。

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減(年度計画No.48)

令和2年度に策定した「経営改善方針」に基づく取組として、業務効率化(電子申請システムの供用開始)を実施した。また、12月に全教職員を対象とした経営状況等に関する説明会を開催し、経営状況や収支改善策の説明とともに、経費削減の徹底等について周知するなど、財務内容の改善に向けた各種取組の一層の推進を図り、大学・附属病院一丸となって、収入の増加や経費節減に取り組んだ。

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

実施した主な内容は次のとおりである。

○内部質保証の充実及び外部評価の導入(年度計画No.50)

内部質保証システムの見直し・検証を行った結果、全学的な自己点検・評価の手順や内部質保証の責任体制等を明確化するため、現行規程や内部質保証推進委員会の専門部会の改組、新規制定、廃止など、所要の整備を行った。

次期認証評価受審(令和6年度)に向けては、8月に自己点検・評価報告書をトライアルとして作成、認証評価機関へ提出し、同機関の助言及び学内意見募集等を踏まえた報告書の内容修正を経て、令和6年3月より報告書(案)の作成を開始し、5月の正式提出に向けた準備を進めた。

附属病院においては、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価における再審査を受審した結果、7月に認定保留となったが、改善に向けて引き続き取り組んだ。

○様々な広報媒体を活用した積極的な情報発信(年度計画No.51)

令和3年度に策定した広報ポリシーと各ステークホルダーに向けた広報活動目標に基づき、特色ある教育・研究・臨床、大学運営等の諸活動について、大学公式ホームページや YouTube をはじめとしたSNSなど、様々な広報媒体を活用し、ステークホルダーのニーズにあわせた効果的な情報発信を行った。また、大学 PR グッズや両学部 PR 動画の整備により、大学イメージアップを図るためのコンテンツを充実させた。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

実施した主な内容は次のとおりである。

○情報セキュリティ対策及び情報ネットワーク基盤の整備(年度計画No.57)

情報ネットワーク基幹システムの安定稼働のため、計画どおり機器更新を実施するとともに、次期更新に向けた技術的検討として情報提供依頼(RFI)を実施した。

また、ガイダンスや講習を通して、セキュリティ対策の周知や情報資産の脅威に関する注意喚起を行った。

○省エネルギーに対する取組(年度計画No.58)

数値目標を設定した『エネルギー原単位の削減』について、令和5年度の実績は前年比1.5%増となり、目標の「前年比1%以上減」を達成することができなかったが、省エネルギー強調期間を設定し、啓発文書や学内放送、メールによる周知、電力の使用情報を学内ホームページに掲載するなど、全職員、学生の省エネに対する意識啓発を図った。また、ESCO事業で導入した設備を継続的に使用し、エネルギーの使用状況の確認を行った。

3 その他の主な実績

(1)教育

① 学士課程

<医師>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	100	116	100	110	106	112
合格者(人)	98	109	97	99	102	107
合格率(%)	98.0	94.0	97.0	90.0	96.2	95.5
(全国平均合格率)(%)	92.4	94.9	94.4	95.0	94.9	95.4
※中期計画目標値 (毎年度)(%)		94.0	94.0	94.0	94.0	94.0

<看護師>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	50	48	51	50	50	49
合格者(人)	50	48	51	50	49	49
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	98.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	94.7	94.7	95.4	96.5	95.5	93.2
※中期計画目標値 (毎年度)(%)		94.0	94.0	94.0	94.0	94.0

<理学療法士>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	19	19	19	20	19	21
合格者(人)	19	19	19	20	18	19
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	94.7	90.5
(全国平均合格率)(%)	92.8	93.2	86.4	88.1	94.9	95.3
※中期計画目標値 (毎年度)(%)		94.0	94.0	94.0	94.0	94.0

<作業療法士>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	20	21	19	21	20	17
合格者(人)	20	19	19	20	19	15
合格率(%)	100.0	90.5	100.0	95.2	95.0	88.2
(全国平均合格率)(%)	80.0	94.2	88.8	88.7	91.3	91.6
※中期計画目標値 (毎年度)(%)		94.0	94.0	94.0	94.0	94.0

② 大学院課程

学位授与者数(人)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
医学研究科 (修士)	7	8	4	3	7	4
医学研究科 (課程博士)	23	21	32	29	38	34
医学研究科 (論文博士)	9	11	6	8	6	6
保健医療学研究科 (修士)	19	11	11	19	19	16
保健医療学研究科 (博士)	10	6	6	5	3	4

③ 専攻科(公衆衛生看護学専攻(令和2年4月～)・助産学専攻)

<保健師>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	10	10	22	23	14	14
合格者(人)	10	10	22	23	14	14
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	88.1	96.3	97.4	93.0	96.8	95.7

<助産師>※新卒者のみ	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
受験者(人)	18	17	17	15	13	15
合格者(人)	18	17	17	15	13	15
合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(全国平均合格率)(%)	99.9	99.5	99.7	99.7	95.9	98.8

④ 道内出身者の入学状況

<医学部>	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全入学者数(人)	110	110	110	110	103	110	110
道内出身入学者数(人)	91	97	95	96	93	99	88
一般枠(一般)(人)	5	10	6	6	11	12	6
先進研修連携枠 (ATOP-M)(一般)(人)	51	52	54	55	70	52	49

先進研修連携枠 (ATOP-M) (推薦) (人)	20	20	20	20	11	20	20
特別枠(推薦) (人)	15	15	15	15	1	15	13
道内出身比率 (%)	82.7	88.2	86.4	87.3	90.3	90.0	80.0

※「地域枠」「北海道医療枠」は、令和2年度から「先進研修連携枠(ATOP-M)」に名称を変更。

<保健医療学部>	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全入学者数(人)	90	90	90	90	90	90	90
道内出身入学者数(人)	89	87	86	90	90	87	88
一般入試(人)	72	69	73	75	77	71	70
一般推薦(人)	17	18	13	13	13	16	18
道内出身比率 (%)	98.9	96.7	95.6	100.0	100.0	96.7	97.8

⑤ 研修医の状況

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
初期研修医数(人)	22	21	16	15	15	20	20
後期研修医数(人)	77	71	70	79	99	100	86

⑥ 道内への定着率

<医学部>	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
初期臨床研修医数(人)	100	116	100	111	102	107
道内在住者数(人)	69	85	80	95	78	87
道内在住比率 (%)	69.0	73.3	80.0	85.6	76.5	81.3
<保健医療学部>	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
就職者数(人)	76	76	76	80	65	69
道内在住者数(人)	66	72	68	73	59	59
道内在住比率 (%)	86.8	94.7	89.5	91.3	90.8	85.5
<両学部計>	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
道内在住比率 (%)	76.7	81.7	84.0	87.9	82.0	82.9

※医学部は、本学を卒業した初期臨床研修医、保健医療学部は、本学卒業者で就職した者のうち、道内在住者の割合を示している。

(2)研究

① 外部資金の獲得

・科学技術研究費補助金申請件数

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
申請件数	262	306	278	279	301
第3期平均(件)	262	284	282	281	285
※中期計画目標値 (年平均)(件)	323	323	323	323	323

(3)社会貢献

① 紹介状持参患者数

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
紹介状持参患者数	15,273	14,630	14,784	16,155	16,912
※中期計画目標値 (毎年度)(件)	13,900	13,900	13,900	13,900	13,900

② 公開講座、出前講座件数

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
公開講座等(件)	97	31	73	74	62
出前講座(件)	1	4	11	7	5
計	98	35	84	81	67

第3期平均(件)	98	66	72	74	73
※中期計画目標値 (年平均)(件)	60	60	60	60	60

(4) 附属病院

① 年間延べ患者数(人)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
外来	412,683	356,845	370,020	382,824	379,325
入院	257,198	217,486	200,362	202,724	193,622

② 手術件数(件)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
	7,998	6,570	7,088	7,072	7,300

(5) 国際交流

① 国際医学交流

・語学研修者数(人)

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
アルバータ大学	12	12	中止	4	6	8

・臨床実習者数(人)

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
中国医科大学						
派遣	2	2	中止	中止	中止	中止
受入	2	2	中止	中止	中止	1
韓国カトリック大学	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
派遣	2	2	中止	中止	中止	中止
受入	2	2	中止	中止	中止	2
高麗大学		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
派遣		2	中止	中止	中止	中止
受入		2	中止	中止	中止	4

② 国際貢献

・JICA日系研修員事業の研修員受入状況(人)

30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
1	1	中止	中止	中止	2

4 決算、収支計画及び資金計画等

1 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

2 短期借入金の状況

計画	実績
①短期借入金の限度額 17億円	なし
②想定される理由 運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	

3 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

計画	実績
なし	なし

4 剰余金の使途

計画	実績
全学的観点に立ち、教育・研究・診療の質の向上、社会貢献及び組織運営の改善に充てる。	知事の承認を受けた目的積立金のうち、1,836百万円を大学施設整備事業及び組織運営の質の向上に充てた。

5 施設及び設備に関する計画

施設・設備の内容	計画	実績	財源
施設整備事業	318百万円	316百万円	施設整備補助金、目的積立金
医療機器等整備費	554百万円	549百万円	長期借入金

6 積立金の使途

計画	実績
次の業務の財源に充てる ・ 大学(附属病院含む。)に係る施設設備整備事業 ・ その他教育・研究・診療・社会貢献に係る業務及びその附帯業務	なし

別紙

令和5年度 決算

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	7,974	8,112	138	
施設整備費補助金	411	335	△ 76	
自己収入	29,757	29,013	△ 744	
授業料及び入学検定料収入	821	804	△ 17	
附属病院収入	27,156	27,060	△ 96	
雑収入	1,780	1,149	△ 631	
受託研究等収入及び寄附金収入等	1,003	864	△ 139	
長期借入金収入	554	548	△ 6	
目的積立金取崩	1,741	1,836	95	
計	41,440	40,708	△ 732	
支出				
業務費	39,244	39,255	11	
教育研究経費	2,113	2,280	167	
診療経費	19,074	19,848	774	
人件費	17,378	16,599	△ 779	
一般管理費	679	528	△ 151	
施設整備費	872	869	△ 3	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	744	801	57	
長期借入金償還金	580	582	2	
計	41,440	41,507	67	
収入-支出	—	△ 799	△ 799	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

令和5年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	40,995	40,715	△ 280	
業務費	38,013	37,808	△ 205	
教育研究経費	2,101	2,271	170	
診療経費	18,183	18,522	339	
受託研究費等	351	426	75	
役員人件費	100	133	33	
教員人件費	4,665	4,616	△ 49	
職員人件費	12,613	11,840	△ 773	
一般管理経費	679	554	△ 125	
財務費用	0	3	3	
減価償却費	2,303	2,350	47	
経常収益	39,280	38,553	△ 727	
運営費交付金収益	7,847	7,782	△ 65	
施設費収益	0	43	43	
授業料収益	727	708	△ 19	
入学金収益	80	84	4	
検定料収益	14	15	1	
附属病院収益	27,156	27,060	△ 96	
受託研究等収益	478	589	111	
寄附金収益	610	486	△ 124	
雑益	1,870	1,786	△ 84	
資産見返運営費交付金等戻入	111	—	△ 111	
資産見返寄附金戻入	85	—	△ 85	
資産見返補助金等戻入	269	—	△ 269	
資産見返物品受贈額戻入	33	—	△ 33	
経常損益	△ 1,715	△ 2,162	△ 447	
臨時損失	—	188	188	
臨時利益	—	2,166	2,166	
純損益	△ 1,715	△ 184	1,531	
目的積立金取崩額	1,681	1,285	△ 396	
総損益	△ 34	1,101	1,135	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

令和5年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学
(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	41,440	48,989	7,549	
業務活動による支出	39,752	38,639	△ 1,113	
投資活動による支出	1,108	4,760	3,652	
財務活動による支出	580	1,537	957	
翌年度への繰越金	—	4,053	4,053	
資金収入	41,440	48,989	7,549	
業務活動による収入	40,589	40,008	△ 581	
運営費交付金による収入	7,974	7,737	△ 237	
授業料、入学金及び検定料による収入	821	749	△ 72	
附属病院収入	27,156	27,173	17	
受託収入	358	618	260	
寄附金収入	646	654	8	
その他収入	3,634	3,062	△ 572	
預り科学研究費補助金等の増加	—	15	15	
投資活動による収入	297	3,152	2,855	
施設費による収入	297	286	△ 11	
その他収入	—	2,867	2,867	
財務活動による収入	554	549	△ 5	
前年度よりの繰越金	—	5,280	5,280	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。